

新城市公共施設マネジメントに関するシンポジウム 報告書

令和 7 年 5 月
新城市

1. シンポジウム概要

タイトル	新城市公共施設マネジメントに関するシンポジウム
テーマ	あなたと考える公共施設とまちの未来
目的	新城市公共施設等総合管理計画（中期）の改訂及び新城市公共施設個別施設計画（第2期）の策定にあたり、市民と行政が公共施設マネジメントについて問題意識を共有するとともに、市民参加と協働による公共施設検討の機運を高め、ワークショップの参加へ繋げる。
日時	令和7年4月26日（土） 午後2時～午後4時
場所	新城市文化会館 大会議室
参加者数	70名程度

〈プログラム〉

2:00 ～ 2:05	1 開会・あいさつ	5分
2:05 ～ 2:20	2 新城市における公共施設の現状とこれから （1）財政状況と将来推計（資産管理課） （2）公共施設マネジメント（資産管理課） （3）学校施設のこれから（教育総務課）	15分
2:20 ～ 3:00	3 公共施設マネジメントに関する基調講演 【テーマ】 公共施設マネジメントの事例紹介～学校施設を中心に～ 【講師】 小松 尚 氏（名古屋大学大学院 教授）	40分
3:00 ～ 3:10	<休憩>	10分
3:10 ～ 4:00	4 パネルディスカッション・意見交換 【テーマ】 公共施設とまちの未来を考える （1）現状・課題の共有 （2）今後への提案 【コーディネーター】 杉木 直 氏（豊橋技術科学大学 教授） 【パネリスト（5名）】 下江市長、小松氏 齋藤氏、江口氏、河村氏（市民代表）	50分
4:00	5 閉会	

2. 当日の進行内容

(1) 開会・あいさつ

開会に際し、下江市長よりあいさつ。



(2) 新都市における公共施設の現状とこれから

①財政状況と将来推計

資産管理課職員より、財政状況と将来推計についての説明を行った。人口減少や人口構成の変化、財政状況等を考慮し、公共施設のあり方を考える必要があることを説明した。また、公共施設マネジメントの実行に向けて市民協働の機運醸成を図った。

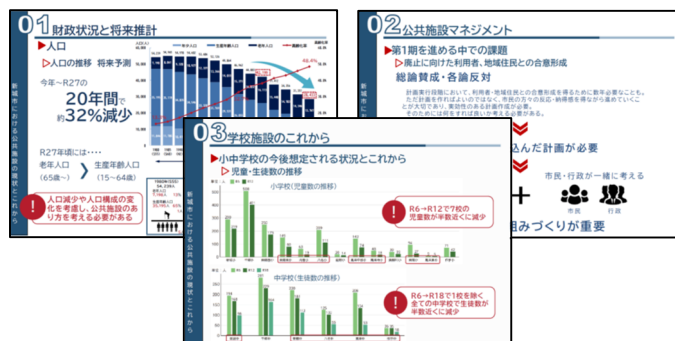
②公共施設マネジメント

資産管理課職員より、公共施設マネジメントについての説明を行った。総合管理計画・個別施設計画の概要や第1期の取組状況、課題等を説明した。

③学校施設のこれから

教育総務課職員より、学校施設のこれからについての説明を行った。総合管理計画における学校施設のポジションや小中学校の今後想定される状況、これから等を説明した。

〈説明資料（一部抜粋）〉



(3) 公共施設マネジメントに関する基調講演

〈講師〉

小松 尚（名古屋大学大学院 環境学研究科都市環境学専攻 教授）

建築計画、都市計画を研究分野とし、国内外の公共建築や公共空間を対象にしており、特に建築や都市空間を「居場所」として捉え、地域との関係や運営方法など多角的な視点からアプローチし、豊かな生活を実現するための研究を行っている。

〈講演概要〉

名古屋大学大学院教授の小松尚氏を招いて、基調講演を行った。本講演では、新都市における公共施設マネジメントの現状と課題を踏まえ、学校施設を地域資源として活用する可能性について、多様な事例を交えて紹介を行った。

講演の前半では、学校が地域の象徴として果たしてきた役割や、児童数減少によって生じる空き教室や廃校の問題を説明した。また、松阪市立鎌田中学校や亀山市立川崎小学校のように、学校と公民館などの地域施設を一体化した複合施設への再編事例を通じて、空間の再利用と地域コミュニティの再生を目指す取り組みを紹介した。

後半では、廃校を観光資源や芸術文化の拠点として再活用する「道の駅 保田小学校」や北海道美唄市の「アルテピアッツァ美唄」といった先進事例を通じ、学校という場の多様な可能性を紹介した。

講演の結びでは、「学校を教育施設から地域の拠点へ」と位置づけ直し、世代を超えた共創と共生を実現する拠点づくりの重要性が提言された。施設の建築的工夫だけでなく、運営段階からの地域参加とコーディネーターの存在の必要性が強調された。

約 40 分間の講演後、参加者と講演内容に関する質疑応答を 5 分程度行った。



(4) パネルディスカッション・意見交換

〈講演概要〉

「公共施設とまちの未来を考える」をテーマに、パネルディスカッションを行った。コーディネーターは、豊橋技術科学大学教授の杉木直氏が務めた。パネリストは、下江新城市長、小松氏（名古屋大学大学院教授）、齋藤氏（市民代表）、江口氏（市民代表）、河村氏（市民代表）が務めた。

パネルディスカッションでは、パネリストの取組み紹介や今後への提案、参加者から寄せられた質問について、議論が交わされた。

〈コーディネーター〉

杉木 直（豊橋技術科学大学 建築・都市システム学系 教授）

専門分野：交通工学、土木計画学

研究課題：都市マイクロシミュレーション、地域防災計画、コンパクトシティ、交通プロジェクト評価

委員歴：豊橋市地域公共交通活性化推進協議会 会長（2017.4～）

田原市都市計画マスタープラン等改訂委員会 委員長（2023.7～2024.6）

新城市公共施設再配置計画検討委員会 委員長（2025.1～）

〈パネリスト〉

齋藤 純子（市民代表）

作手地区在住。平成22年に作手地域の小学校再編検討に関わったのをきっかけに、「学校跡地のあり方 を考えよう会」を有志と発足。また、共育施設となる「つくで交流館」の設計協議にも関わり、開館後は地域交流・地域活性化につながる活動や地域の魅力を次世代へ伝える活動に取り組んでいる。

江口 芳枝（市民代表）

鳳来地区在住（豊明市出身）。夫の仕事をきっかけに新城に移住。子育てのかたわらで個人塾を経営。子どもが楽しく興味の幅を広げられる学びの場を自分たちでつくる決意をし、友人と有志団体「コトトモ」を設立。子どもも大人も輝ける場づくりをモットーに「放課後探求教室」などを開催。

河村 真和（市民代表）

鳳来地区出身。鳳来中学校、時習館高等学校出身。現在は、愛知県立芸術大学音楽科に在学。

トランペットを専攻しながら、県内の中学校や高校の吹奏楽部の指導を行う。

中学校の頃から新城吹奏楽団に所属し、新城市の音楽イベントに参加。



3. 参加者への満足度等の調査

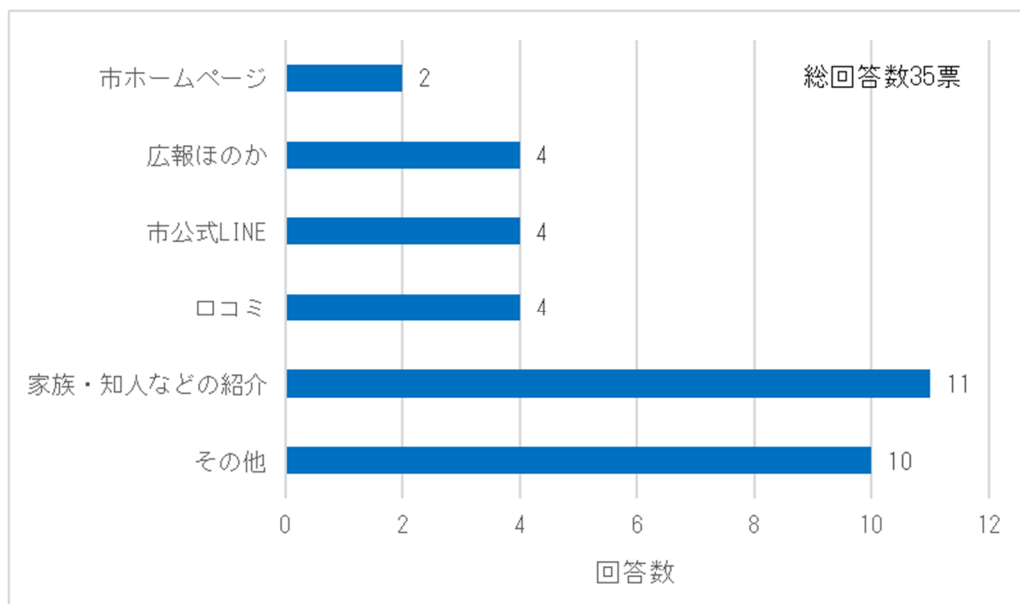
(1) 調査概要

調査の概要	
実施日	令和7年4月26日（土）
調査方法	シンポジウム会場にて Kahoot（カフート）を使用。
回答数	35～41 票（設問により回答数が異なる）
調査内容	シンポジウム参加者に対し、シンポジウムの内容についての意見、感想を収集した。また、公共施設マネジメントの必要性についての理解度やワークショップへの参加有無等についても意見収集した。
設問	問1. 今回のシンポジウムをどこで知りましたか？
	問2. 今回のシンポジウム全体の満足度は？
	問3. 新都市の課題（人口・財政・公共施設）についての理解度は？
	問4. 公共施設マネジメントの必要性についての理解度は？
	問5. 公共施設の再整備を進めると、今まで利用していた施設が遠くなったり利用の仕方が変わったりする場合があります。あなたはどのように思いますか？
	問6. 公共施設としてあなたが優先する場所はどれですか？
	問7. 今後開催するワークショップへ参加していただけますでしょうか？

(2) 調査結果

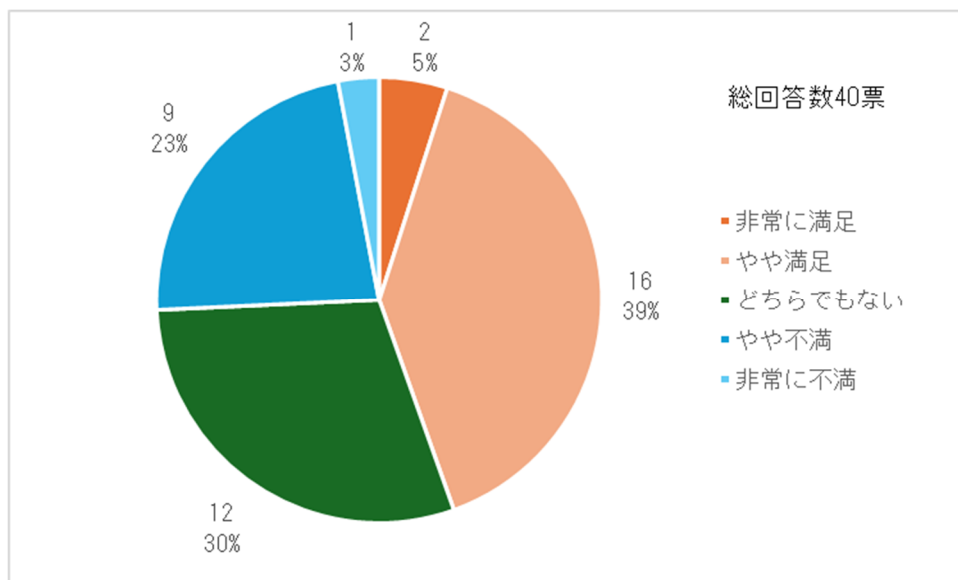
① シンポジウム開催についての情報の取得方法

「家族・知人などの紹介」が最も多くなっている。次いで、「口コミ」や「市公式LINE」、「広報ほのか」が続いている。SNSによる情報発信、ホームページによる情報発信等のインターネットを活用した周知方法も一定の効果が見られた。



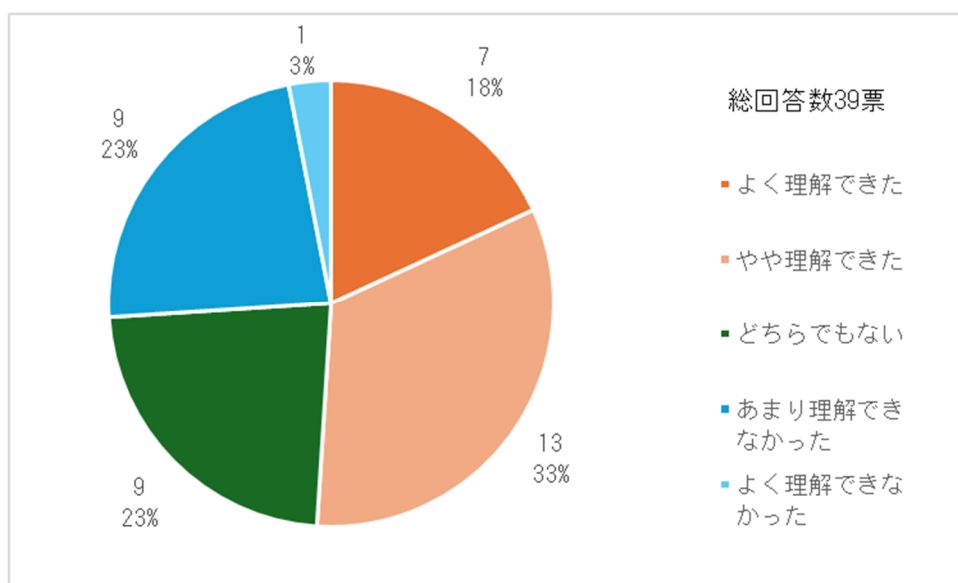
② シンポジウムの満足度（５段階評価）

約 44%の参加者から「満足」という回答（「非常に満足」「やや満足」の合算）が得られた。一方、約 26%の参加者は「不満」という回答（「やや不満」「非常に不満」の合算）であった。



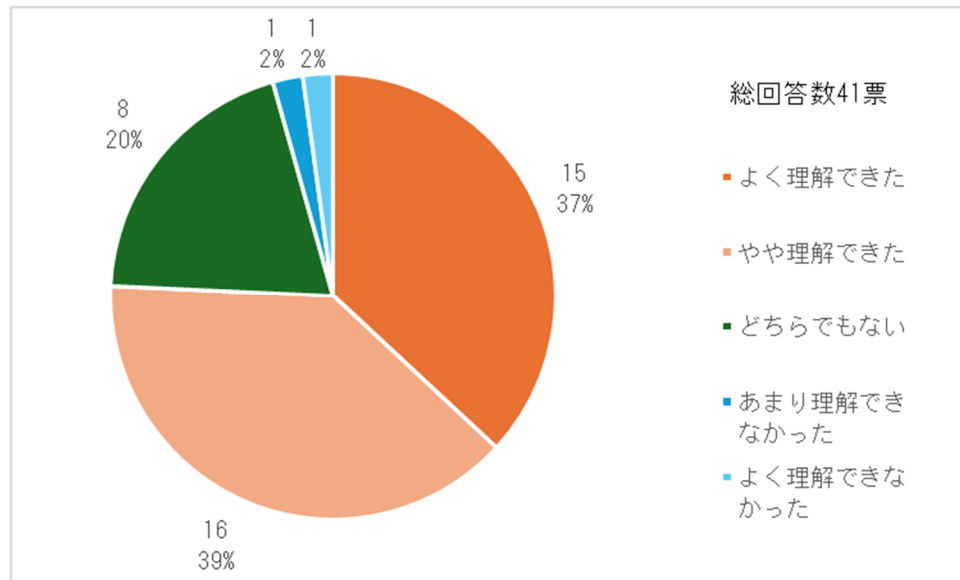
③ 新都市の課題（人口・財政・公共施設）についての理解度（５段階評価）

約 51%の参加者から「理解できた」という回答（「よく理解できた」「やや理解できた」の合算）が得られた。一方、約 26%の参加者は「理解できなかった」という回答（「あまり理解できなかった」「よく理解できなかった」の合算）であった。



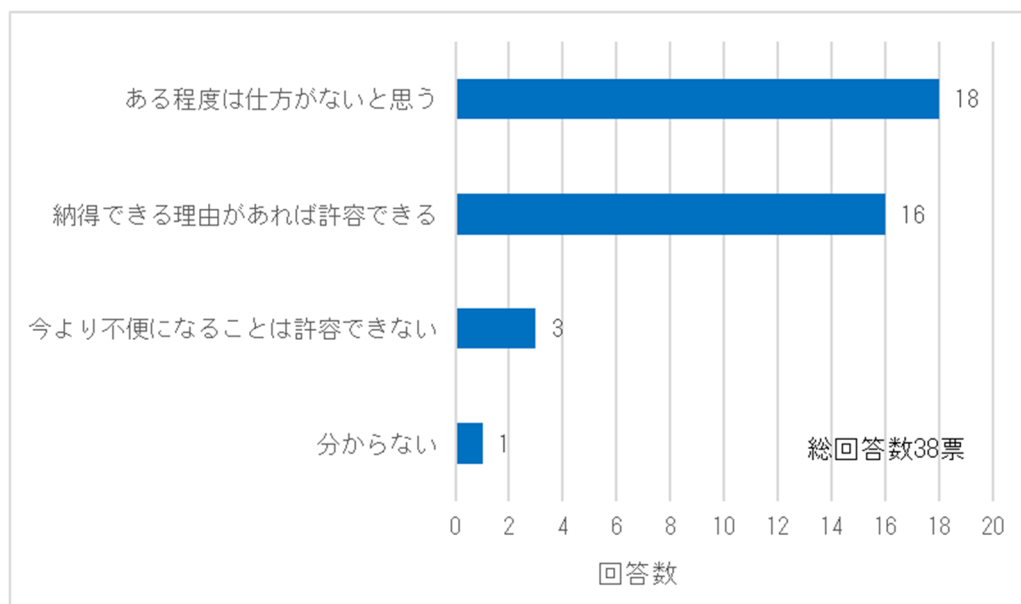
④ 公共施設マネジメントの必要性についての理解度（５段階評価）

約 76%の参加者から「理解できた」という回答（「よく理解できた」「やや理解できた」の合算）が得られた。一方、約 4 %の参加者は「理解できなかった」という回答（「あまり理解できなかった」「よく理解できなかった」の合算）であった。



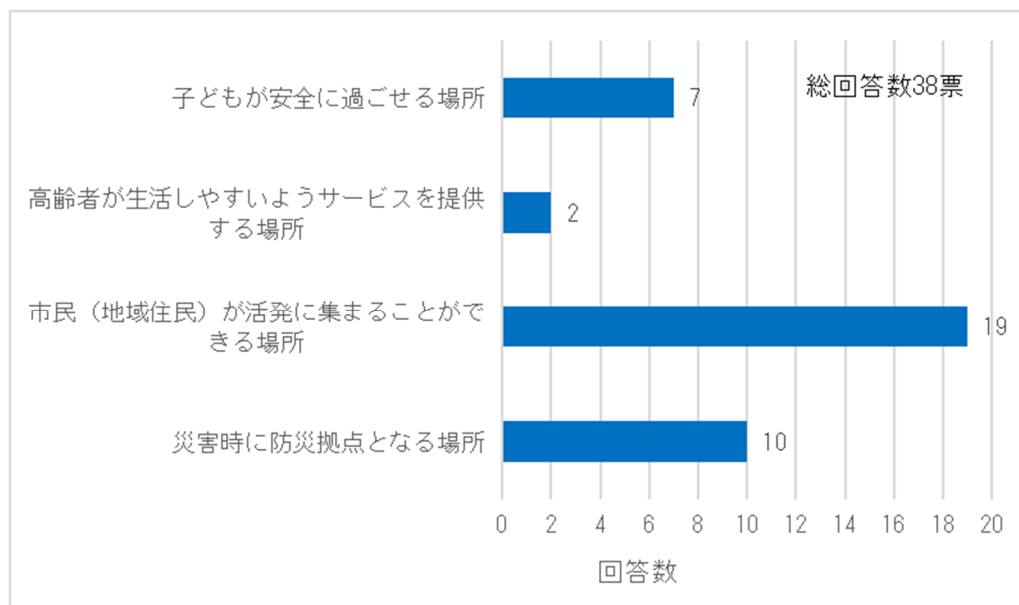
⑤ 公共施設の再整備を進めると、今まで利用していた施設が遠くなったり利用の仕方が変わったりする場合があります。あなたはどのように思いますか？

「ある程度は仕方がないと思う」が最も多くなっている。次いで、「納得できる理由があれば許容できる」が続いている。



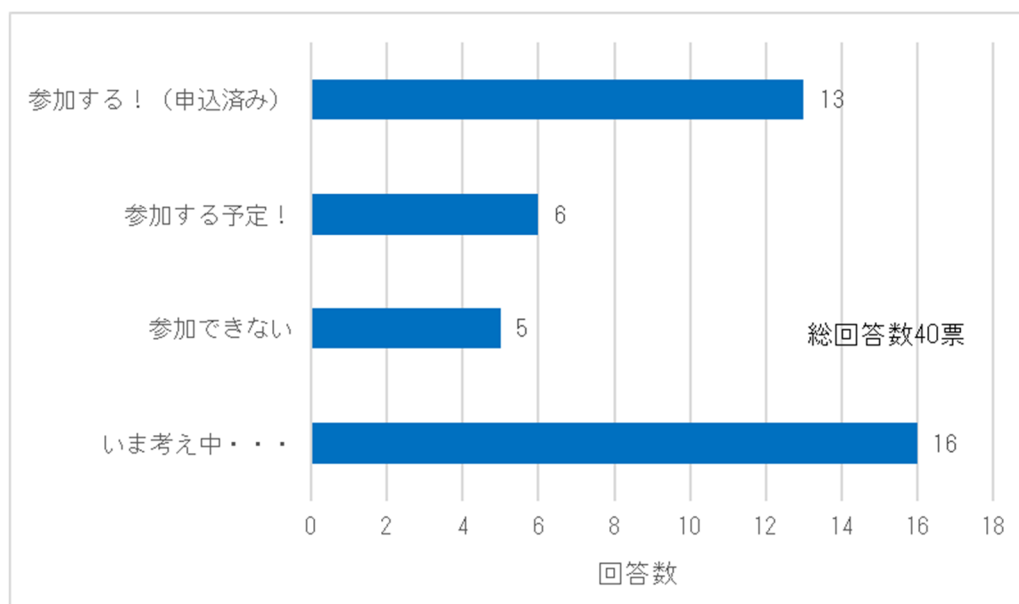
⑥ 公共施設として優先する場所

「市民（地域住民）が活発に集まることができる場所」が最も多くなっている。次いで、「災害時に防災拠点となる場所」や「子どもが安全に過ごせる場所」が続いている。



⑦ 今後開催するワークショップへの参加意向

参加するかどうか考えている回答が最も多くなっている。また、「参加する」という回答（「参加する！（申込済み）」と「参加する予定！」の合算）は19票あった。



4. 参加者からの質問・意見等

基調講演、パネルディスカッションでは、スライドウ（意見収集ツール）を使用しリアルタイムで質問・意見等を参加者から収集した。また、自由意見記入シートを事前に配布し、会の終了時に回収した。

(1) 基調講演

● 複合となると地目変更必要ですね！
● 指定管理、第3セクターなどは行政直営じゃないとしても公費がかかりますし自立といえないのではないのでしょうか？ 民間一択のような気がします。 縮充のためには生徒数が少ない地区は小中学校の統合が最優先の気がします。
● 民間の活用が期待出来ない地域が多い気がします。
● 学校と公民館などの複合施設はありだと思います。 高齢者の方と小学生などが交流できる場所、共有スペースなどがあって、学童保育も兼ねたりすることができれば、親世代が働きやすいと思います。
● 山間僻地の学校を残すのは、費用対効果で行政がダメ出ししませんか？
● キーマンとなる人材に必要なスキルは？
● 総合的運営は法人化か？
● 学校は残すべきですか？ 地域も広域、コミュニティも小さいため、学校を拠点にするには大き過ぎて、維持出来ず、学校ならではの使い勝手の悪さもあるように思います。
● 複合施設を作ろうとしたきっかけってなんなんだろう？
● 共用して地域の拠点にしていくのは、学校以外の公共施設でもいいのでしょうか？ 学校が一番向いている理由などがあるのでしょうか？
● 地域の方が「建物」を残そうとし過ぎている気がします。 廃校もそうです。 「なんとか利活用」という声はよく聞きますが、使うのをやめる事も選択肢の一つだと思います。
● 地域の拠点いいですね。 駐車場も広いし学校使えるといいなと思います。
● 道の駅のような再活用は都市計画法的に問題があるような。 どのようにクリアするのか。
● 新城で、松阪のような複合学校をつくるためには、何から取り組めばよいですか？ 市民にできることは何ですか？
● 防犯の観点から課題はありませんか？
● 保護者の理解は得られるものなのでしょうか。
● 閉鎖した施設を利用するのが1番現実的な気がします。
● 新城の既存の学校施設（築30年を超える古い建築様式）で地域との共用は可能なのでしょうか。
● 学校の歴史とか、昔の思い出に愛着を強く持っている大人のひとが、新しい事を始めるときに、あれもこれも残してと言われて困ることはないですか？ 学校の統廃合でも子供たちは友達がたくさんできて嬉しいのに、地域の大人が自分の母校を守ろうとしたり。 どうしたらいいのでしょうか？
● 道の駅 保田小学校の改修工事費用はどのくらいでしたか？ 又、資金調達はどこからですか？ 収支は如何ですか？

耐用年数は何年で、収支が合いますか？
● 住民との共有スペースを有している現状のなか、セキュリティや、学校と社会教育との管理の線引きはどのようにしているのでしょうか？
● 縮退ではなく縮充を目指すため、充の見える化が必要と思われますが、単に新たな機能を付けるというような打ち出しではなく、包括的総合的に事前評価する手法はありますか。
● 興味深いお話ありがとうございます。 学校施設と公共施設の共有との事で、市民の皆さんと作り上げたので大丈夫かと思いますが、万が一の際の外来者からの生徒の安全性はどうでしょうか？
● 縮減ではなく「縮充」。 これからのまちづくりに必要な考え方だと思います。 ここにいらっしゃる方々以外の市民のみなさんにも知ってもらいたい言葉です。
● 学校に地域施設を複合化することで、子どもたちの成長、学力などに、どのような良い影響が出ていますか？ 逆に悪い影響はないのですか？
● 学校の閉鎖的な考え方は出てなかったですか？ 建築のための補助金はどちらから調達したのでしょうか？
● 学校施設との共用で教育委員会からはどのような意見があったのか知りたいです。
● 廃止・統廃合の合意形成にあたって、実情は理解できるものの反映はできないような住民意見に対して、最大限の配慮を図る行政や社会の姿勢や態度は、どのようにあるべきでしょうか。
● いろんなことが学校でできるのは良いと思います。
● 統合に際して、施設の多目的化複合化のための良いプランができたものの、資金を行政が用意できず、民間や自前の資金も調達できなかったために諦めた事例はないでしょうか。
● 誰でも入れるの危なくないですか？
● 建設は公費で民間との共同ではないですね？
● 公民館と学校の複合施設について、こちらはどのパターンですか？ ・ 周囲の中学校を廃校して複数中学校を統合して新設 ・ どこかの学校を残して改装 ・ 学校以外の移設に機能集約
● 地域と学校間のいさかいはないですか？ 地域の人であるという確認なしに入れるのでしょうか？(怪しい人が入ってしまわないですか？)
● 学校に先生生徒以外が入れるなんて意外！
● 投影資料の写真撮影はNGでしょうか？
● 学校関係の廃校も話が持ち上がった時から将来の活用を協議、決定しなかった理由は何ですか？ 正直、かなり今更感が高いです。
● なぜにこども園の数は資料に含まないで発表したのですか？ 先ずはこども園からの意識を持って欲しいですが、

(2) パネルディスカッション（現状・課題の共有）

● 高齢者施設も人口減少で不要になってくる時代がきますよ。
● 久しぶりに昔通った学校を見ることがありました。 衣替えのように使わない時はしまっておくことができない大きな施設、○か×かの話ではない答えを考えたい。
● スポーツジムや、屋内アスレチックなど、レクリエーション施設が少ないと感じます。 会員制であったり、鳳来の「ゆーゆーありいな」くらいしかなく、高齢者も、子育て世帯も集まれるような施設を廃校などを利用して作れないでしょうか。

既存施設を活用するにしても、壊すなら何か使わないと...程度では、結局行き詰まってしまうのではないのでしょうか。 自分たちの生活にとって、何がほしいか、何が必要かを洗いだし、そのことを実現するために有効活用できるとなったら利用していけばよいと思います。 ただ、実際にほしいものや必要な物を見つけるというのは案外難しいとも感じています。
● 新城東高校跡地が今後どのように使われるか決まっていることがあれば知りたい。
● 新しく作るとき、あるものを改修するとき、閉鎖した建物の再利用、それぞれで考え方は全く異なる。 ただし、この地域がどうなっていって欲しいという気持ちがあれば、どの場合も向かう先が見えて来るはず。 同じ考え方の人がばかりとは限らないから難しいですね。
● 市民代表のパネリストが、みな若い女性の皆さん。 やはり地域をアクティブに動かしていくのは、今日来てるような高齢男性ではなく、こういった人たちか。 また企業や行政ではなく、そこに住んでいる個人。
● 国が定めた学校運営の要項にも「積極的に地域と連携すべき」とあるのに、何か提案すると「できない理由」を並べてやらない決断になるのが古いと思います。
● 園児、児童は減少するが今後高齢者が増えるのであれば学校とデイサービスや老人ホームを合わせてみればどうかと思う。 子供は福祉や介護に理解や興味を持ち高齢者は先ほど先生が言われたように格好にも気を遣って若返り元気になるのでは。
● 菅盛小学校のジビエレストランへの改修費用の調達はどのようにしましたか？ 収支は合ってますか？
● 車社会で高齢化社会。 みんなにとってプラスの活用方法とか、使う人をえらばない、みんなのための施設に、学校跡地がなり得るのでしょうか。 ベストでなくてもベターな答えを考えたいです。
● みんなで考えて決めることではあるが、公共（教育）施設をどう活用するかという点では、他の地域の方に来ていただく場というよりは、そこに住む方々の利用する場にしたい。 新城の中でも地域によってその方向性は変わると思う。
● 学校をどうこうするとき、すごく昔の教師が出てきて昔話をして教育を語られるのに違和感あります。 こういう場に若い人が来ないとよくお年寄りが嘆いていますが、若い世代はお年寄りの年金のために働かなくてはならないので、諸先輩型が若い考えを持つことが重要！
● 公共施設をどうするか考えるには、その地域をどうしていくかを考えることから始まる。 まさにそうですね！
● 建物が建っているから気になるが、更地になると忘れるものだね。
● 地域といっても人口はどんどん減るの、指定管理なども結局持続性がないので余った施設は民間譲渡一択だと思います！
● 民間提案制度への申し込みはありそうですか？
● 作手交流館ができて、住民のみなさんにとって、一番よかったことは何ですか？
● 地域に協力してもらわなければならないというが、地域がそれに耐えうる状態では無い。
● 能力が高い且つ責任感を持って担える市民が少ないのが現状では。
● 学校は世代（子ども・子育て・成人・高齢者）によって考え方が変化するので『議論』は難しい。
● 放課後に学校の空き教室を利用したイベント開催を相談したところ、管理の点から難しいと回答がありました。 地域活性化のためにも、利用しやすくなるような仕組みづくりが必要と感じました。
● 作手善夫の涼風の里が、トイレ故障により客数が激減している。 市に予算がないからいつになるか分からない。

地域からは地域に譲渡いただければ考えると言う意見がある。 目的が叶うならば市がその意見も考慮しながら検討いただきたい。
● 地区の公民館ですが、区ごとの人数も減っており、管理も大変になっているのでは？ 老朽化も進行していると思います。 地区管理であり市はノータッチかもしれませんが、地域の交流を図る大事な施設だと思いますので、近隣区で統合するようなアドバイスをしてもよいのでは？
● 廃校を残さないという答えに向けてポジティブな検討は出来ないでしょうか？
● 避難所に指定しているのを外しませんか？ 避難所である以上、残さなければならなくなり、維持が大変です。 学校を活用して地域活性化をっていうのは幻想のように感じますが、いかがでしょうか？
● 学校はいっそ市の中心部に大きく統合してスクールバスの充実でこどもたちが多く集え、交流が大きくなるといいな。 もちろん課題もあると思いますが。
● 昔は寺子屋から始まっている。 65歳以上だったりする人で教員免許を持っている人が教えるとか？ 園児に関してもそのような形式もできると思われます。 はじめないと始まらない！ 協議の機会をもっと増やすべきだと思います。

(3) パネルディスカッション（今後への提案）

● 行政だけでも限界がある、地域だけでも無理。 民間に委ねたくても中々纏まらない。 なら、それぞれでできること、協力できることはしていけるのが理想だけだね。
● 民間提案も、それに固執して、それを実現させるために意地になると失敗しそうで怖いです。
● 山間部だけでなく市街地の魅力と機能を高めることも必要ですね。 市全体の活力を高めた波及効果が求められます。 また統廃合には地域防災計画の見直しも連動し、公マネに関わる全ての情報を市民が共有したいところです。
● 新都市、一つで考えるのは困難では？ 例えば山と川が身近にある地域と全くない地域では、一つとして考えるには無理があります。 地域特性はどうか、見極めて進めるべきでは。
● 自分がほしいばかりでなく、次世代を思いやれる気持ち。 人のことを思いやれるように、その気持ちの醸成が基礎に必要な気がします。
● 市民の声に丁寧に耳を傾けて、市民が気づいていない潜在的欲求を拾っていただけたらと思います。
● 公共施設だけの問題だけでなく、スマートシティも視野に議論していく必要を感じます。 その中には、耳の痛い話や身を切る選択もあると思います。 でもそれを避けて、理想だけを語っても解決しないと思います。
● もっと話し合いの場所、時間、空間（ネット上）を市役所牽引で実施して欲しい。 年1回では何も進まない。
● 地域で拠点が欲しいのと、学校跡地の再利用は全く別の話ではありませんか？ 公共施設は最小限でないと、この先の負担に耐えられません。
● 市民代表のパネリストのお話をもっと聞きたい。 別の機会でもいいが。 斎藤さんのところは非常に成功事例だとは思いますが、どうしてその地域の方はみな積極的に参加できているのか？ 自分に地域には全く関心のない人が多い。
● 昔ダメだったからと言って、今でもダメとは限らないと思います。

日々法律や規則も変わるので。
● 作手や鳳来の奥地の公共インフラを維持管理していくのは限界。 一部の市民を見捨てるようなことを行政はできないだろうけど。
● ノスタルジー、懐古趣味は、残念ながらもう役に立たない時期にきていると感じます。 個人的には、早川昔の話をする人には参加してほしいと思うことがあります。 小松さんのお話にあったように成果が出るのは30年後。 30年後の姿を想像して話ができる人を増やしていくことが必要だと思います。 このことがとても大変なことなんですが。
● 行政の予算がなければクラファンというのは安易すぎる。 金銭によほど余裕のない限り、自分にメリットがあるかどうか分からないものに、お金は出さない。
● 規制があってできないことも多いかと思いますが、その規制を緩和していく方法も考えていくべきです。
● 新城東高校うまく使ってください。 未来のためにここにお金をかけていいと思います。 中学校全部停止してやることでできませんか？
● 学校の空き教室を利用したいと相談したら、とても理解のある校長教頭と、全く理解されない校長教頭がいた。 学校を複合的に利用するには、その人たちの理解がとても必要。
● なんで全部公共に求める？ このまま無理に維持すると、福祉にお金が回らないなど、もっと身近な生活に支障は出ない？
● 今どうしたいかではなく、残すなら何年先まで残るのか、その時その地域はどうなってるか。 想像して考えるべきかも。
● 廃校廃園は今方針が決まらないから残して欲しいというのは辞めるべきでは。 明確に期限を決めて、残すのか壊すのか、残すなら何に使うのかを決めないといつまでも維持管理費だけがかかってしまう。
● 住民第一は視野が狭く許可が出にくい。 視野を広くすることを勉強し許可をもらう公務員が地域住民の当事者にならないと始まらない。
● 新城市しか知らない私です。 他市町村の方から見える新城市の魅力は何だろう？ その中のどこを修正する？ 施設を減充することで、その魅力は維持できる？
● 本会のような場所に出てくることのない市民の意見の吸い上げる機会を作りに行くことは確かに大事ですね。
● 何をやるにしても、全てにおいてスピード感必要だと思う。 何かを作る・やる。にしても、色んな補助金などについても。 新城に住むメリットがあれば、市民は離れないし住みたいと感じると思う。 新城市自体がもっと良くしたい。こうしたってどんどん発信するべきなのかな？と思った。
● 依存財源6割で、人口減少が現実のものとなっている現在、自主財源の割合を多くしたいと市は表現していますが、この先自主財源を増やす施策は具体的にありますか？ 単なる希望だけでは説得力に欠けますが・・・
● 空き教室って、地域の要望でそんなに簡単に転用できるのか？ 以前、放課後に教室を利用したいと学校に相談に行ったら、法律上学校機能以外で利用できないと言われた。
● まちづくりに関する拠点とする事は当然なんですが、強く思うのは一部でも地域ビジネスに繋がる施設、環境に整える事が重要であると思います。
● 新城東高校跡地をつかっては？

新築で作る・公共施設延べ床面積が増えるデメリット→全中学校を廃校にすればいける！→空いた学校を民間提案制度で売る・先ほどの共用スペースなどを含めた新たな施設→使っていない公共施設を潰して全てここに集約→シャトルバスも運営。
● 維持継続ってお金があるけど、新城市には財力ないですよね...誰が払う？ タダなら使いたいのは都合良すぎだよね。 市民に覚悟あるかな...
● 久しぶりに地元へ帰っても、見ることで落ち着く小学校。 衣服みたいに簡単に買い替え出来ないの、○×のような極端な答えはしたくないけど、やっぱり維持するには大き過ぎかも。
● 公共施設のあり方については、結論を急ぐ必要があると思います。 期限を決めて早く結論を出しましょう。
● 公共施設に何を求める？ ないと寂しい ≠ ないと困る 自分にかかってくる税負担などがイメージしにくいから、危機感が薄い意見も出てくる。
● 公務員としてインストラクター等を契約し、学校を巡回して開催する。
● スポーツジムや、屋内で子供を遊ばせるような気軽に行けるレクリエーション施設が市内にありません。 市内（新城東高校の跡地などを利用して）で子供から高齢者まで使えるようなレクリエーション施設を作っていただきたいです。
● 家以外に勉強できる場所、気軽に使える場所があるのはいいですね。
● クラウドファンディングリターンと額の調整して考えてみては？ 例えば学校施設を一度壊すのに数億円ですが、改修とかなら〜3億くらいでいけませんか？
● 地域・団体等がもて余すなら更地を勧めます。
● 学校施設のこれから作手、新城、鳳来で考えるのか？ それとも新城市は一つと考えるのか？ 市長いかがでしょう？

(4) 自由意見記入シートにより回収した意見等

● 新城市の現状が良くわかりました。 20年後はまだ生きてるので、どんな新城になっているか不安になりました。（新城だけでなく日本全体の問題ですが、、） ただ、小松先生のお話を聞いて楽しく過ごせる可能性もあると希望も広がりました。事例紹介をしていただいたような素敵な施設、便利な施設に変わることを期待しています。新城は範囲も広いので変化するには人の力もアイデアも多く必要になると思います。 市役所だけでなく民間の力と一緒に進むとより多くの提案や企画も増えるのではないかと感じました。
● 市にとっても地域にとっても大切な時期だと感じた。 市の部課や市民、垣根なく意見を出しあい、“生みの苦しみ”を共にしていけたら良いと思う。
● 「市長が言われた「公共施設の編成は行政と市民が一緒になって、どういう機能を持たせていくかを考え、実現させていくことが大切だと思う。 学校施設だけでなく、その他の公共施設を考え、最終的には新城市を再編して、住みやすい故郷をつくっていくことが必要だと思う。
● 学校施設の有効活用については、地域住民並びに子どもたちが共に考えていく場が必要だと思いました。それには地域住民が学校に足を運び、現状を知るところから始まるのではないのでしょうか。大変有意義なシンポジウムでした。
● 紹介のあった手法、金のない新城市で行うのは至難だと思う。できて既存の施設への機能集約だろう。夢のあるマネジメントではなく身を切るマネジメントが必要。市長の力量次第。

● うわべだけの話しあいだった。
● 意見を出しあうことは大変重要。 しかし最終的には出た意見を取りまとめて実際に実行して「実現」しなければ意味がない。市民と行政が力を合わせて実現を！！
● パネルディスカッションが短かった。
● 公共施設数および敷地面積を減らすために、極小規模の行政区を行政からの働きかけで統合することが必要だと思う。 施設が古くなり危険ということで、立ち入り禁止という標示やテープを張ってあるだけの所が多くあるが、解体するなら解体する、修理するなら修理する、建て直すなら建て直しをスピード感をもって取り組んで欲しい。 市所有の施設および敷地を民間に売却し、市の負担を減らすと共に市の収入を増やす工夫も必要ではないかと思う。例えば小規模な廃校など。 地域住民の長年の願いなどは優先して解決してほしい。スピード感をもって取り組んでいただきたいと思う。
● この様な話し合いは今後に期待したい。公共施設が町を元気にしてもらえれば！
● とても貴重な機会でした。ありがとうございました。 「縮減」ではなく「縮小」。他の場でも聞いた言葉ですが、これからの過疎地は、この考えなしには成り立たないと思います。 行政も市民も議員も、維持するでもただ削るだけでなく、スポンジ化してくまちでどのように充実した人生を過ごしていけるのか、その意識を変えていく必要があると思います。
● スライドッで色んな意見が見られてよかったです。
● もう少し規模を小さくしての話し合いも必要かと思う。
● とても良いメンバーでの基調講演とパネルディスカッションだったと思います。 ただ時間が少ない、少なすぎますよね。 次回からのワークショップに期待しています。
● 新都市の課題について、改めて危機感をおぼえました。
● 参加者が多く、ご意見（スライドッ）がたくさん投稿されていたことが、市民の皆さんの意識の高さを表していたと思いました。特にスライドッの利用はとてもよかったです。 紹介されなかったコメントに対しても、どこかで活かしてもらいたいと思いました。